

カルト対策に関する各学校へのお願い

2009年に強姦致傷等で10年の実刑判決を受け、2023年に再び準強姦や強制わいせつなどで23年の実刑判決を受けた鄭明析（チョン・ミョンソク）が総裁の「キリスト教福音宣教会」（以下、通称名「摂理」）に、多くの大学生や中高生が取り込まれています。鄭明析は、旧統一教会（現：世界平和統一家庭連合）の元信者で、1979年頃に摂理の教会を創設して以降、信者に対する性的被害を相次いで起こしてきた人物です。

摂理は、以前から正体や目的を隠した勧誘を行っており、現在では、SNSを駆使した偽装勧誘を行っています。同じ学校の先輩や卒業生を装って、ターゲットの投稿に「いいね」やコメントなどをつけ、良い印象を持たれた頃にメッセージを送って友達になり、やがて摂理のダミーサークルやフロント組織が主催する集会へ誘うようになります。

自分たちの正体が摂理であることを明かすまで、半年から一年以上かけることもあり、すっかり関係ができあがってから正体を知らされたメンバーは、自分が騙されたとは思えません。むしろ、大切な仲間ができたと思い、摂理から引き離そうとする家族や友人を「サタン」と恐れ、距離を置くようになってしまいます。

同様の手法で、オウム真理教の後継団体の一つである「アレフ」も、若い人たちを取り込んでいます。最初は、「こころの相談室」や「メンタルヘルス講座」などを主催する団体としてターゲットにメッセージを送り、相談や勉強会を重ねて信頼関係を築いた後、「地下鉄サリン事件などはオウム真理教以外の者による陰謀である」などと説明して、団体に対する抵抗感を持たないように誘導します。

他にも、外国の言語を学習するためのアプリを使って、何も知らないターゲットと仲良くなり、自分たちの主催するオンラインセミナーや集会に誘おうとする団体や、オンラインゲームのチャットを通して関係を築き、「一緒に心理学の勉強をしてみないか？」と誘う団体もあります。実際に、誘われた集会や勉強会へ行くようになると、最初に告げられた目的とは異なる宗教の教えを学ぶ勉強へ、徐々に移行していきます。

中には、素直な生徒や学生を勧誘させるため、先に、学校の教師を取り込もうとする団体もあります。環境問題、SDGs、世界平和、人権問題、信教の自由などをテーマにした講演会や勉強会に、大学の教師を講師として呼んだり、宗教間対話や超教派の勉強会を名目に、ミッションスクールの宗教主事へ参加を呼びかけたりすることもあります。

このように、多くの破壊的カルトは、大学キャンパスでの警戒や対策が進むにつれて、より巧妙な偽装勧誘を模索し、対策が手薄な中高生を対象を広げてきています。各学校においても、生徒や学生に対する注意喚起、教職員への研修を通して、対策を強化していただけるよう、どうかよろしくお願いします。